



“From the people of Japan”

滋賀県立守山中学校 2年 脇 捺夢

モンゴルでは街中で障害者をほとんど見かけない。そのため、モンゴル人は障害者に出会う機会が少なく、偏見を持ってしまうことも少くないようだ。また、バリアフリーという考え方がなく、建物の扉のあるところには必ずと言っていいほど段差があり、「悪いのは段差でなく障害者」という認識がある。

それを知った後、子どもたちが日本語を学ぶ施設を訪れた。自由時間、子どもたちは自由に歩き回っていたが、そこにぽつんと一人だけ椅子に座っている男の子がいた。その子は、脚に障害があり、普通に歩くことができなかったのだ。とても気になっていたその子と話をする機会ができたとき、「もうすぐ日本に行って手術するんだ！」と嬉しそうに教えてくれた。こんなにも、日本に希望をもって来る人がいることを知り、私も嬉しくなった。それと同時に、モンゴル人にとって日本円はとても高く、日本の社会保障も適用されないため、日本での手術は高額のコストがかかる。また、モンゴルでは医療が整っていないため、日本では当たり前のように治療できる病気もモンゴルでは治療出来ない現実を目の当たりにし、心が痛んだ。

現在、医療分野においても青年海外協力隊員が派遣され、隊員一人一人の地道な努力によりモンゴルの医療が少しずつ改善されている。ものを提供するだけでなく、技術を直接伝えることで、現地でそれが当たり前の仕事となり、そこで治療ができる人やその国の人々の笑顔が増えることを心から願う。